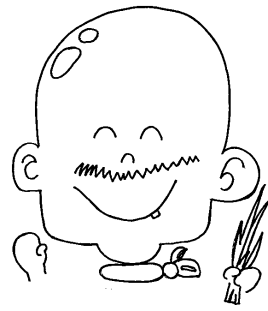


# 農大同窓会報

発行所  
愛知県立農業大学校同窓会  
岡崎市美合町字並松1-2  
電話(0564)51-1601

編集発行人  
同窓会長 柴田 隆夫  
印刷所 (株) イヅミ  
電話(0564)21-2657

ごあいさつ



## 全国同窓会長総会

先日、東京で全国農業大学校同窓会会議に出席してまいりました。3年間のコロナの影響で久しぶりのリアル対面での会合になりました。

例年通りの総会の後、現職の農水省の政務官 藤木真也氏の講演がありました。藤木氏は、農業高校卒の現役の農家で、地元J A組合長を経験した後、参議院議員となり、農水省のナンバー3の立場として活躍中です。非常に現場に精通しており、その手腕に期待を持たれています。

今後の農政の方向も示され、興味深い内容でした。

## 会長 柴田 隆夫

### スマート農業の時代

全国同窓会長が集まり交流する中で、オツと思わされたのは、北海道の方の発言で、トラクターの自動操縦は、当たり前になり普及していて、ドローンによる防除も、かなり実用的に行われ始めているとの事。まだ初期の段階なので、基地アンテナの故障も時々起きる様です。そうすると、何十台というトラクターが一斉に止まってしまつて復旧するまで止まりっぱなしという事もあるそうです。

何はともあれ、農業のIT化の流れは、止めようもなさそうです。

### 新農機の開発

私もキャベツ農家として、収穫用運搬車の改良プロジェクトに参加しています。

機械工学専門の大学の先生、機械メーカーの技術者、プログラマーなど、20名程の専門家の

集団で行っているのですが、現場で満足に使えるものはなかなか出来ません。機械の電動化と、リモコン化に取り組んでいるのですが、そもそも、現場のニーズにマッチしていません。しかも、現場実験1時間で見たこともないゴツイサーボモーターが壊れました。悲しいことに、これが開発の現実です。

現場のニーズを机上で発想して、実はトンチンカンな事に時間を使っています。

これには、農家側の責任もあって、開発のなるべく早い段階で現場のニーズを伝える事。農家側も、メカニズムやシステムの可能性と限界を、ある程度把握理解して、開発者側とすり合わせていくことが大切かなと思います。

21世紀になって20年以上が過ぎ、コストを考えなければ、不可能な事は無いと言つて良い時代になりました。

国の政策として、食料安全保障の重要性から、根本的に農政を考え直す動きも始まっています。

今が絶好のチャンスとも言えます。それぞれの現場で蓄積された知恵やノウハウを、ぜひ次代の農業に生かせる様、他業種との積極的な交流の中で生み出していきたいものです。

県農大も頑張っている！

県農大も、IoT農業を学べる体制づくりに、毎年、努力を重ねております。



## ごあいさつ 同窓会員の皆様

校長 石橋 良洋

同窓会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃から、柴田隆夫会長を始め、同窓会の役員、理事、会員の皆様方には、本校の円滑な運営に格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

私は、この4月に農業大学校長を拝命いたしました。職員、学生とのコミュニケーションを図りながら円滑な教育研修業務の運営にあたつてまいりたいと考えておりますので、同窓会員の皆様方には、歴代校長と同様、御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、新規就農者のワンストップ相談窓口の常設も完了しました。

次世代の地域リーダーを育てるための農業塾も開設しています。

このすばらしい日本、愛知の農業を次代に継ぐためにも、ぜひ、県農大を活用してください。よろしくお願い致します。

### 卒業生の進路

農大では令和4年度の卒業式を3月7日(火)に執り行い、農学科の学生74名が新たな進路に進みました。

卒業した学生は、まさに新型コロナウイルスの感染拡大で学業等多くの制約がある中で2年間を過ごしましたが、実習や寮生活を仲間同士がしっかりと支え合い、苦勞を分かち合ったことで、確かな友情と信頼関係を築くことができたのではないかと思います。

卒業生の進路は74名中、32名が就農(後継者就農と農業法人への雇用就農)し、就農前提の一時就職や研修が10名、そして

JA等への就職が30名でした。本県農業の担い手として、また、農業を支える人材として、卒業生の今後の活躍を大いに期待しています。同窓生の皆様には、これら卒業生へのあたたかい御指導と御支援をお願いいたします。

### 近況報告

令和5年度は、新たに91名の1年生を迎え入れ、4月7日(金)に入学式を挙行いたしました。新入生にとって緊張の中にも晴れやかで思い出に残る入学式になったのではないかと思います。

新入生が加わり、新2年生と合わせて在校生は161名となりました。コロナ禍前の日常を取り戻し、学習面、生活面ともに伸び伸びと、色々なことにチャレンジするなど、学生にとって楽しく有意義な1年になることを期待しています。

5月下旬には、昨年度、愛知県で開催された「東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会」が、4年ぶりに全府県(9府県)参加のもと、兵庫県で開催され、本校からもたくさんの方が参加し、多くの種目で優秀な成績を収めることができました。

また、この大会を通じて、本校学生の団結力が高まるとともに、

に、他府県の学生との交流促進が図られたことは、大変良い経験になったのではないかと思います。

### 学生募集

さて、本校では、6月から8月にオープンキャンパスを開催するなど、来年度の学生募集に向けた取組を行っています。全国の農大の入学人数が減少する中で、本校においても、ここ数年、定員の100名を下回る入学人数で推移していますが、受験者数は毎年定員を上回っており、これも同窓会をはじめ多くの関係者のご支援・ご協力のおかげであると感謝しております。

多くの意欲ある学生を確保するため、令和4年度の学生募集から特別推薦入試制度(農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験)を改正し、非農家出身でも就農(雇用就農も含む)意欲が高く在学中に農業クラブやクラブ活動に精力的に取り組んだ者の推薦(特別推薦Ⅱ)を加えています。

また、インスタグラムやツイッターといったSNSにより、学生自らが日頃の実習や学校生活等を情報発信するなど、本校の魅力を積極的にPRしています。こうした取組が、今後の入学希望者の増加につながることを期待しています。

### 最後に

本県農業を支える優秀な人材の養成を行う本校の使命は益々重要なものと考えています。この使命を遂行するため、常に教育現場重視の視点で創意工夫や改善を図りながら、教育内容の一層の充実や円滑な学校運営に努めてまいりますので、同窓会の皆様にも一層の御支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様の更なる御活躍と御繁栄を心から祈念申し上げます。

## ◆◆令和5年度理事会だより◆◆

令和5年度の理事会は、令和5年2月3日(金)に開催しました。

第1号議案から第6号議案の内容について配付した資料により審議していただき、すべての議案について異議なく承認されました。

各議案と主な内容は以下のとおりです。

○第1号議案 令和4年度事業報告

・同窓会報第38号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

・同窓会員の表彰

○第2号議案 令和4年度会計決算報告

○第3号議案 令和5年度事業計画

・同窓会報第39号の発行

・役員会・理事会の開催

・卒業生記念品贈呈

・同窓会員の表彰

・農業大学校同窓会全国連盟総会等への参加

・支部活動並びに技術部会活動への支援

○第4号議案 令和5年度会計予算

○第5号議案 愛知県立農業大

学校同窓会規約の一部改正

○第6号議案 理事の委嘱及び役員相互選について

理事の委嘱及び役員相互選について、意義なく承認されました。

### 次期理事会

### 開催のお知らせ

同窓会規約により、令和6年度は次のとおり開催予定ですが、理事の皆様は出席をお願いいたします。

日時 令和6年2月2日(金)

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校

中央教育棟会議室



東海近畿ブロック  
同窓会長会議報告

令和5年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会長会議が令和5年8月7日(月)に滋賀県立農業大学校で開催され、柴田会長が出席しました。  
会議は、東海近畿ブロック農業大学校校長会議と合同開催され、全体会議の後、(株)カネク代表取締役久保田九氏による「農大生に望むこと」雇用経営の視点から」と題した基調講演が行われました。  
その後、同窓会長会議の分科会議が開催され、同窓会の現状等について、活発な議論が交わされました。

農業大学校同窓会名簿  
の購入御案内

平成26年11月に同窓生名簿を発行しました。御購入を希望される方は、同窓会事務局へお問い合わせください。

名簿頒価：1冊3,000円(消費税、送料込)  
恐れ入りますが振込手数料はご負担下さい。

同窓会事務局 ☎0564-51-1602

令和五年度  
役員名簿

会長	柴田 隆夫(専九)
副会長	富永 康典(専八)
	野田 留美(大研一〇)
	伊藤 真二(大農二九)
	山田 博嗣(大專一)
会計監事	鶴飼 里恵(大專一五)
	学校職員(管理課長)
	尾崎 芳弘(専四)
事務局長	高木 宏道(大研九)
書記	学校職員(学務科長)
	山田 守克(大專一〇)
	岡本 貴幸(大農二五)
	石橋 良洋(校長)
顧問	加藤喜重郎(元校長)
名譽顧問	長尾 周幸( )
	有澤 道雄( )
	大井 昌次( )
	武井 昭夫( )
	内山 公男( )
	鈴木 良憲( )
	木村 茂夫( )
	落合 秀彦( )
	村井 智子( )
	林 錡( )
	伊藤 茂樹( )
	大飼 唯士( )
	山田 勝( )
	鈴木 敏之( )
	藤井 潔( )
	三浦 貞志( )
	堤 公生( )
	鷹羽 靖夫( )
	鈴木 吉地(前会長)

農学科の令和4年度卒業論文発表会を開催しました

農学科の卒業論文発表会を令和4年12月13日(火)に開催しました。

今回は久しぶりに大講義室に2年生、1年生を全員集めての開催となりました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自ら農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文発表はその成果を専攻毎に選ばされた2年生9名(昨年度に引き続き養豚・養鶏専攻から2名)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを



質問する審査員

全学生の前で発表できる絶好の機会です。

発表会当日は、いずれの発表者も専攻の代表であるという自覚と責任を持って、素晴らしい発表を行いました。審査は、鷹羽校長始め4名の審査員が「発表内容」、「発表方法及び態度」、「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。

各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞

門協幹(作物専攻) 「稲WC Sの品種毎での最適な栽培方法の検討」

優秀賞

大門昂大(施設野菜専攻) 「ICT温室における大玉トマ



最優秀賞の門協君

ト40トンどりを目指した栽培技術の確立」

優秀賞

水谷風都(養鶏専攻) 「ロイコチトゾーン症による被害の抑制」

審査委員長である鷹羽校長は講評の中で、「限られた期間や条件の中での取り組みに苦労したと思うが、どれもレベルの高く内容のある素晴らしい発表であった。」と本人や専攻の関係者を労いました。

最優秀賞の門協君は「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表として参加し、みごと優秀賞(3席)に輝きました。さらに「全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」にも参加し、みごと上位入賞(6席)を受賞しました。



受賞者と発表者

# 農業大学校の近況

(人数は入学時点)

## 1 概況

令和5年度の教育部農学科の学生数は1、2年生あわせて161名で、そのうち女子は53名で33%となっています。

専攻別学生数は表1に示したとおりで、野菜の2専攻の学生数が多い傾向が続いています。また、露地野菜専攻と酪農専攻は女子学生の割合が50%と高く、女子の人気の高い傾向となっています。

一方、企画研修部では、Uターンや他分野からの新規就職支援、離職者等への農業に関する再就職訓練など長期間の就業支援研修を3つ開講しています。令和5年度は3研修で計54名が受講しています。また、福祉事業所職員が施設の栽培ほ場を運営するのに必要な基礎知識及び技術を修得するとともに、農作

表1 令和5年度農学科の専攻別学生数 (単位:人)

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	8 (2)	3 (1)	11 (3)
切花	5 (1)	7 (2)	12 (3)
作物	9 (2)	5 (1)	14 (3)
果樹	15 (5)	10 (0)	25 (5)
露地野菜	14 (7)	15 (7)	29 (14)
施設野菜	15 (3)	13 (3)	28 (6)
酪農	15 (6)	9 (6)	24 (12)
養豚・養鶏	10 (3)	8 (4)	18 (7)
計	91 (29)	70 (24)	161 (53)

( )内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
H29	96	27	28%	34	35%
H30	95	25	26%	37	39%
H31	97	24	25%	32	33%
R2	104	28	27%	29	28%
R3	83	24	29%	27	33%
R4	76	25	33%	18	24%
R5	91	29	32%	25	27%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度		H30	R1	R2	R3	R4
就農	後継者	3	15	12	10	8
	農業法人	26	18	17	23	24
	一時就職後就農	10	13	10	13	8
	就農計	39	46	39	46	40
就職	44	37	34	44	30	
進学	3	3	4	3	2	
その他	1	1	4	7	0	
計	6	3	8	1	2	
計	93	90	89	101	74	

業を行う作業者にわかりやすく伝える手法を身につけることを目的とした農福連携支援研修を開講し、15名が受講しています。

本校キャンパス内では、農学科の若い学生から社会人経験のある研修生まで、幅広い年齢層の人々が学んでいます。

## 2 農学科の入学状況

本校では、意欲の高い学生を確保するため、オープンキャンパスや緑の学園研修、農業改良普及課を通じた県内各JA広報誌への学生募集の掲載などを実施しています。そうした取組の結果、本年度は、定数100名に対し107名の志願者がありました。試験の結果、91名が入学しました。うち、専業及び兼業農家子弟の学生は25名で入学者全体の27%、非農家出身者は73%となっています。また、女子学生は29名(32%)で、県内農業

高校出身者は57名(63%)でした。(表2参照)

## 3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援を行っています。令和4年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。74名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、予定者を含めると40名で全体の54%にあたります。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。

本校では職業安定法に基づき「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就農等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお持ちしております。

## 農学科各グループの近況

【鉢物・緑花木専攻】  
ガラス温室や遮光ハウスなど約1600㎡の施設と300㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等200種類以上の品目を栽培しています。在籍者11名(2年生3名、1年生8名)のうち、専業農家

出身者は2名で、普通科高校卒業生も多くいます。専攻実習では、1年生の9月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生からの「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。本年度は「多肉植物の効率的なさし芽方法の検討」などをプロジェクトテーマとして取り組んでいます。学生それぞれのアイディアを生かし、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。



ます。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷しています。また、毎週水曜日に実施する実習販売では、切花加工演習で習得した技術を生かして自分たちで作った多品目を組み合わせた花束も販売しており、お客さんの反応を楽しみしながら、意欲的に取り組んでいます。

【露地野菜専攻】  
露地野菜専攻には、1年生14名、2年生15名の計29名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技能習得に取り組んでいます。1.5haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、スイカ、ナスなど、県内の主要40品目の勉強をしています。また、イチゴの高設栽培において、令和2年度から環境測定装置の「あぐりログ」を設置・活用するとともに、暖房機の更新に合わせて、炭酸ガス発生機を導入し、令和3年度からはミストによる湿度管理を始めるなど、本格的な環境制御技

【切花専攻】  
約1500㎡の温室と200㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ペニバナ、ガーベラなど、10種類以上の植物を栽培しています。本年度の在籍者12名(2年生7名、1年生5名)のうち、専業農家の子弟は2名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月中旬から10月下旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなっています。

【野菜グループ】  
露地野菜専攻には、1年生14名、2年生15名の計29名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技能習得に取り組んでいます。1.5haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、スイカ、ナスなど、県内の主要40品目の勉強をしています。また、イチゴの高設栽培において、令和2年度から環境測定装置の「あぐりログ」を設置・活用するとともに、暖房機の更新に合わせて、炭酸ガス発生機を導入し、令和3年度からはミストによる湿度管理を始めるなど、本格的な環境制御技







術に挑戦しています。近年の異常降雨に対応するため、プラソイラーによる深耕を行い、水はけを改善しています。また、作柄安定のため土壌診断に基づく施肥量の適正化と、夏期の遊休期間を利用して緑肥を栽培しています。

**〔施設野菜専攻〕**  
施設野菜専攻には、1年生15名、2年生13名の計28名が在籍し、約30aの温室で、トマト、ナス、キュウリ、メロンを栽培しています。本専攻では、産地で普及しているココバグ栽培や袋培地栽培など、有機培地養液システムを導入しました。

令和2年度から温室に環境測定機器の「プロファイナダー」を導入するとともに、炭酸ガス発生装置と高圧ミスト装置を設置し、本格的な環境制御に取り組んでいます。また、ICT温室が令和2年2月に完成しました。「プロファーム」を核とした統合環境制御システムを完備し、令和3年8月から本格的な運用体制が整い、10a当たり年間収量40tを目指した学生のプロジェクト学習を行っています。最新の温室を前に学生の士気が高まっています。

「作物・果樹グループ」  
14名の学生（農家子弟は6名）で、1haの大区画水田をはじめ大小9区画、計3.3haの水田で、大型機械を利用して水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。

1年生は水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進め、2年生からプロジェクト学習に取り組み、卒論としてまとめられます。

そのため、2年生になると各学生には場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制となっています。

化学肥料及び化学農薬を使用しない栽培方法や飼料用稲の栽培法の検討などをテーマとして取り組み、高生産性及び付加価値の高い技術に取り組んでいます。

また、近年は農機メーカーの協力も得て営農支援システムの活用などスマート農業の学習にも力を入れています。



**〔果樹専攻〕**  
本年度は、1年生15名と2年生10名の計25名の学生で、2.2haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品目を栽培しています。また、イ

チジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。

多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業に学生たちは多忙な毎日を送ります。

6月に入ると順次収穫が始まりますが、いずれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。

学生は、入学当初は数多くの樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めてより専門的な知識・技術を習得します。本年度のテーマとして、「ブドウ『シャインマスカット』の長期貯蔵技術の検討」、「ナシ『幸水』の着果位置調整による収穫前進化の検証」などに取り組んでいます。



**〔畜産グループ〕**  
乳用牛約35頭、肉用牛約10頭、育成牛約25頭の計70頭前後の牛を1年生15名と2年生9名の学生が飼養管理しています。また、約45haの圃場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も

行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもありですが、1年生も、2年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようになっています。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していくため、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちで名付けた牛たちを名前呼びかけながら愛情いっぱい飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。

フリーストール牛舎で、牛がより過ごしやすい環境を整えており、今後、今後もアニマルウェルフェアを意識した飼養管理を実践し、生産への波及効果を期待しています。



**〔養豚・養鶏専攻〕**  
養豚コースでは1年生4名、2年生2名の計6名が在籍し、交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまでの一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。毎年、派遣実習を終えた1

年生の各学生は、担当する母豚を決め、繁殖成績、肥育成績などを競い合うことで、責任感を持って飼養管理ができるような体制を取っています。

養鶏コースでは1年生6名、2年生6名の計12名が在籍し、ウインドウレス鶏舎、開放鶏舎で、白玉・赤玉鶏、卵用名古屋コーチン等を合計約2500羽飼育し、採卵鶏の飼養管理技術について学んでいます。新たに入ってきた1年生は、6月にはひなが1200羽入すうしたこともあり、ひなの飼養管理技術について学ぶことができました。また、毎週水曜日に行われる実習販売で、学生がお客様に直接、鶏卵を販売することにより、接客や直販での売り方を学んでいます。



## 農大祭

### 農大祭2022を開催

令和4年12月3日(土)午前9時から午後1時まで、「やりたいことを全力で」「笑顔満天農大祭」をテーマに「農大祭2022」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、食品バザー等の飲食を伴う催事も含めて、3年ぶりに従来通り実施することができました。

さらに新たに、各専攻案内や学生の研究発表の成果をパネル展示する専攻展示室を設置しました。

当日は穏やかな晴天に恵まれ、約2,000名もの方々に来場いただきました。



会場風景



食品バザー

今年も体育館は鉢物・緑花木専攻のシクラメンやポインセチア等で埋め尽くされました。テントブースでも、ハクサイ、キャベツ、トマト等の野菜を始め、養豚・養鶏専攻の鶏卵や果樹専攻のナシ、ブドウ、作物専攻の米等が所狭しと並べられ、それらを買いたい求める長い行列ができていました。

後援会の提供品ブースでは、学生の保護者から提供いただいた野菜や果物などを販売し、協賛団体・企業等の出店ブースでは、農産物や加工品の販売、農業機械の展示・実演が行われ、いずれも大好評でした。

3年ぶりに復活した食品バザーでは、農大で獲れた農作物を使用した、五平餅や豚汁、おでん、プリンなどたくさん美味しいメニューが並び、来場者のお腹を満たしていました。同様



多くの来場者で賑わう会場

に、茶道部による農大茶席も3年ぶりに開催され、たくさんの方に愛知の抹茶と伝統文化である茶道への興味を持っていただきました。

また2回実施したキャンパスツアーには、併せて45名の参加者があり、普段は見えていただけない圃場やトラクター等を見学して、農業や農大への理解を深めていただきました。

などは、学生にとって手探りの中で準備を進めることになりましたが、「やりたいことを全力で」やり切り、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。

### 農大祭2023について

今年も12月2日(土)に「農を感じる！大ナミックに！！祭高の1日を！！」農大祭！をテーマに農大祭を開催します。

農産物の販売等の取り組みを通して、愛知県の農業の魅力と大切さを伝えていくとともに、県民の皆様にも農業大学校を身近に感じていただけるように学生が中心となって準備を進めていきます。

同窓生の皆様も、ぜひお越しいただけますようお願いいたします。

農大祭の開催準備状況は農業大学校SNSでご案内していきます。

### 農大祭2022への協力について

農大祭実行委員会では、同窓会会員の皆様から協力金を募っております。

ぜひとも皆様のご協力をお願いいたします。

#### ●協力金の金額

一口 1,000円

(二口以上でお願いします。)

#### ●振込先

金融機関 あいち三河農業協

口座名義 同組合 美合支店

口座番号 農大祭実行委員会

会長 石橋 良洋

口座番号 普通

0036083

#### ●払込期限

令和5年11月9日(木)

※振込でのご協力をいただく場合は、各金融機関の振込用紙を御利用いただくとともに、御氏名の前に「同窓会 ドウソウカイ」とご記入ください。  
なお、振込手数料についても御負担くださるようお願いいたします。



## オーブンキャンパス2023を開催

令和5年6月3日(土)、17日(土)、7月25日(火)、8月1日(火)、8月22日(火)に、農業大学校への入学に関心のある方及びその家族「オーブンキャンパス2023」を開催し、5回の開催に延べ390名の方が参加されました。

参加者は、大講義室で農大の特色、入試に関する情報、就職先などの説明を受けた後、キャンパスツアーで広大な敷地にある施設を見学しました。その際、学生もスタッフとして同行し、積極的にコミュニケーションを取っていました。

農大産のミニトマトやブドウを試食した後には在校生との交流を行い、参加者から出された実習の内容、寮生活、クラブ活動、アルバイト等の質問に対し、自らの経験を踏まえて説明していました。

また、希望者を対象に、寮食堂にて学生に交じって昼食を食べていただき、普段の農大生の生活の一部を体験してもらいうことができました。

参加者からは、「先輩方がとても優しく、わかりやすかった」、「施設が充実していて2年間楽しそうだなと思った」

などの感想が寄せられました。より多くの方に農大に入学しキャンパスを始め様々な機会を通して農大の魅力を発信していきます。



キャンパスツアー



在校生との交流

## 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会 兵庫大会

今年度の東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会は、5月25日(木)・26日(金)に兵庫県三木市で開催されました。競技種目は軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、テニスの6種目が開設され、本校は全種目に参加しました。

競技では互いに相手を尊重し、フェアプレイ精神で臨むなど礼儀正しい試合を行うことができました。観戦・応援では相手チームとの交流を深めつつ、ファインプレーがあれば、自他ともに称賛するなど節度ある姿勢で取り組んでいました。成績は軟式野球、バレーボールが優



出場選手

勝し、バドミントン個人の部では男女とも優勝しました。他の種目においても入賞などの好成績を収めることができました。

今年大会ではコロナ禍の影響で交流会が初日の競技終了後に三木山総合公園体育館で開催されました。他府県との交流会は久しぶりで農業を志す学生が一同に会して各校の学習環境や寮生活などの情報を交換し合い、有意義な機会をもつことができました。この学生スポーツ大会を通して学生は県を越えたネットワークを構築するなど、将来の農業経営に活かすことができるものと思います。

次年度の学生スポーツ大会は



バレーボール

滋賀県で開催されます。この大会での新たな出会いと経験を活かし、愛知農大生として、さらに成長していくことを期待しています。

## 企画研修部の各種研修紹介

企画研修部では、新規就農希望者向けの研修や、農業者が社会情勢の変化と進歩する農業技術に対応するための研修、一般県民が愛知県の農業を理解するための研修を実施しています。

令和5年度に実施する研修の定員総数は約2400名にのぼります。一部研修ではニーズに応えるため、定員を増やして実施します。

### ① 農業者生涯教育研修

農業を担うべき者を対象に、農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。

○ 担い手の確保を目的とした長期研修

農業所得250万円以上を目標とするUターン就農者や農外からの新規参入者を対象とした



農業技術研修・校外学習



生産高度化研修

また、経営を発展させたい農業者が営農しながら体系的に経営を学べる場として「あいち農業

○ 農業者を対象とした経営発展段階に応じた研修

農業者が必要とする知識や新技術等をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」、「農産物利活用研修(6次産業化)」を実施しています。

「ニューファーマーズ研修」、非農家等これまで農業以外の仕事に就いてこられた方が新しく農業を始めるための「農業者育成支援研修」、離職者の公共職業訓練に位置づけられ岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として実施している「農業技術研修」があります。



農業機械研修(けん引免許)

研修」、「刈払機研修」等を実施しています。

### ② 農業機械研修

農業機械研修は、農業を担うべき者を対象に、農業機械に関する知識・技術習得を目的とした研修を実施しています。

免許が取得できる「大特免許研修」、「けん引免許研修」のほか、「小型車両系建設機械研修」、「フォークリフト研修」、「刈払機研修」等を実施

業経営塾」や、経営改善効果が期待できる「GAP研修」、女性農業者の活躍を促進するための「女性農業者支援研修」を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図っています。

このうち、GAP研修については、実際にJGAPを導入した農業者の作業場等における現地研修を今年度も予定しています。

### ③ 農業理解研修

県民が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得て、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。

「県民公開講座」は、広く一般の方を対象に、家庭で栽培するカキやウメ等の身近な果樹の剪定方法を学んでもらう研修を実施します。

農業機械に関する研修は、免許や資格取得に直結するためどの研修も人気が高く、申し込みが定員を大幅に超える研修もあります。

営農上、必要な免許・資格もあるため、卒業後就農を予定している学生には、積極的に受講するように推進しています。

令和5年度に企画研修部が実施する各種研修一覧

研修名		回数	定員
農業者生涯教育	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	農業技術	—	30
	経営管理	4	240
	生産高度化	10	890
	農産物利活用	1	20
	GAP	2	50
	女性農業者支援	4	300
	あいち農業経営塾	—	20
農業機械	大特免許	9	165
	けん引免許	2	24
	トラクター作業	2	16
	フォークリフト	2	56
	小型車両系建設機械	2	52
	刈払機	1	24
農業理解	県民公開講座	1	50
	農業体験学習	—	400
	農福連携支援	—	15
合計		—	2,387



農福連携支援研修

「農業体験学習」は、園児や小学生等が農業に親しみ、理解を深めてもらうため農大の生産施設見学会を実施しています。

また、農福連携を推進するため、福祉事業所職員を対象とした農産物の栽培技術習得を目的に「農福連携支援研修」を令和2年度から実施しています。



オーストラリアへの海外派遣研修を実施しました。

3年ぶりの開催

令和5年1月、これまでコロナ禍により中止していた「海外派遣研修」がオーストラリア・ニューサウスウェルズ州およびシドニーで3年ぶりに実施されました。2年生66名と随員職員3名が参加しました。今回、先輩から後輩へ、前任から後任への「アドバイス」「武勇伝」「ノウハウ」等の引継ぎが出来ていない中での実施となりました。

2年間のブランクの影響は大きく、研修に意義や魅力を見出せない学生の不参加、日本と異なる生活環境からくるアレルギーへの対応、自由時間中の一時的な所在不明、パスポートの紛失未遂など、前年度からの課題の引継ぎやしつかりとした事前準備があれば、発生自体や程度を抑える事が出来るような問題も多く発生しました。

ただこれらは、先輩からの自信に満ちた土産話やアドバイス、職員に引き継がれる課題・注意点として、翌年以降へのノウハウの蓄積に繋がっていきます。

2〜4名でのファームステイ

オーストラリア到着後、その日のうちに引率職員も添乗員もいない4日間のファームステイが始まりました。言葉もWiFiの電波も通じにくい外国の一軒家。脱走を試みれば、森か



ファームステイ

原野で遭難するのが関の山といった環境です。

しかし、ごく一部を除き引率職員がベースとする宿泊施設より数段上の部屋と食事が用意され、学校側の心配をよそに中間訪問では大半の学生がステイ先での自分たちの生活を自慢げに紹介してくれました。この点については、少し甘やかせ過ぎたのではと懸念・反省・嫉妬しています。

ホビーファーム

これまでファームステイは「大規模経営ファーム」で実施していましたが、今回から現地コーディネーター、日本の旅行代理店の提案により、より規模の小さい「ホビーファーム(=定年後に田舎で趣味的・非生計に家庭菜園などを営む形態)」での実施となりました。これは数日間という短い期間の中、大規模ファームでの従業員として

の体験作業より、ステイ先とのコミュニケーションや現地生活を実感することに重きを置いた判断からです。実際、戻ってきた学生の第一声は「どういった作業を行なった」というものより、「どう過ごしたか、どう接したか」「日本との違い」「別れがさびしい」というものが多く聞かれました。

一周回って楽しくなった

一部では「ハイジの藁のベッド」「シャワーは3分(水が貴重)」のようなワイルドな環境に体調を崩して、SOSを出す学生もいました。副作用の面から個人持ちの薬を渡すことが出来ず、事前に本人に自前の薬や国内から持ち込める上限の10個の飲料を準備するよう徹底できなかったことが悔やまれました。

各ステイ先の状況はWiFiの繋がりが難さはあるもののSNSにより学生間ですぐに共有されます。容易に他のステイ先との比較が出来てしまうことが本人達を傷つけてしまったと思えます。ホームステイ最終日、彼らの「ワイルドさも一周回って楽しかった」と言ってくれた一言が、現地で得た逞しさを実感するとともに、救いとなりました。

Yes, mam

今回、ファームステイ先の選定・調整、引率職員のステイ先訪問時の案内役兼運転手は、現地コーディネーターのビッキー



フレムトンマーケット

さんに行なっていたいただきました。首都メルボルンからファームステイの起点となる「ポータル」までの片道700kmをSUUVで駆けつけるタフな女性です。滞在中、大小織り交ぜて発生する問題をバツサバツサと片付けていく豪腕ぶり、右往左往する我々への気遣いなど「どこまでもついて行きます!」と思えるほど心強い存在でした。

シドニー満喫

現地学生の案内による班単位でのシドニー観光は、あらかじめ大まかなコースを決めてのもの



現地コーディネーターと引率職員

のでしたが、ある班では開始早々「好きな靴を履ける店に連れて行ってほしい」「名物のパンケーキは外せない」と確信的に予定を脱線。快く「我侬なオーダー」に応えてくれる同世代の現地学生と意気投合し、クラスの子の写真をコンコンと見せ合うなど内容の濃い?交流が行えました。どの班も似たような状態だったようです。

98%の満足度

数々の問題がありました。研修終了後、ほぼ全ての学生が「海外研修に行ってよかった」と回答しています。研修前「行きたくない」「意味なくね」と言っていた学生が180度考えを変えられるほど(農大の実習、生活指導でこうするには相当骨が折れますが)、自信と思い出を身につけることが出来た研修となりました。良い意味で後輩に引き継がれることと思えます。



シドニー観光

令和4年度卒業式

令和4年度卒業式が3月7日(火)に行われ、教育部農学科74名が本校を巣立っていきました。

新型コロナウイルス感染症により、長らく様々な制約の中で式典が行われてきましたが、今回、3年ぶりに保護者が見守る中、厳粛に挙行されました。

式典中、卒業生はマスクを外すことができましたが、マスク生活に慣れてしまったからか、大半の学生はマスクを着用して臨んでいました。

式典では、卒業生全員の名前を呼名し、鷹羽校長から卒業生総代の石原清花さんに、卒業証書が授与されました。

成績優秀者や実習等に精励した者に対し、愛知県知事賞

県知事賞や大学校長賞、全国団体の表彰が行われ

が、愛知県知事賞や大学校長賞、全国団体の表彰が行われ



卒業式の様子

れ、16名の学生が受賞しました。その後、校長式辞に続いて、柴田同窓会長から御祝辞をいただきました。

最後は、次期学生会長による送辞と卒業生代表の果樹専攻武山アイリさんによる2年間の思いを込めた答辞を行い、閉式となりました。

卒業生には、この学校で学んだ知識や技術、学生生活で出来た仲間を頼りにし、誇りを持って前に進んでほしいと思います。

表彰状受賞者

優秀賞

石原 清花 教育部農学科 養豚・養鶏専攻

【大学校長賞】

澤村 日菜 教育部農学科 酪農専攻

生駒 はな 教育部農学科 露地野菜専攻

服部 碧記 教育部農学科 果樹専攻

奨励賞

【大学校長賞】

牧 哲大 教育部農学科 鉢物・緑花木専攻

寺澤 祐美 教育部農学科 切花専攻

寺澤 祐美 教育部農学科 切花専攻

野田 将吾	教育部農学科 作物専攻
林 陽向	教育部農学科 果樹専攻
伊藤 空也	教育部農学科 露地野菜専攻
今泉 凜音	教育部農学科 施設野菜専攻
屋宜 虎我	教育部農学科 酪農専攻
水谷 風都	教育部農学科 養豚・養鶏専攻
特別賞	
【大学校長賞】	
門脇 幹	教育部農学科 作物専攻
武山アイリ	教育部農学科 果樹専攻
全国農業大学校協議会長賞	
小池 創太	教育部農学科 酪農専攻
農業大学校同窓会全国連盟会長賞	
藤松 稜也	教育部農学科 作物専攻

農業大学の職員

(令和五年七月一日現在) (印は異動の職員)

○校長	石橋 良洋
○副校長	島岡 勝隆
【管理課】	
課長	森脇 裕子
主幹	内藤るみ子

主任	大塚 宙
主事	井出 裕介
主事	福井 七海
○非常勤	今西 亜紀
○非常勤	近藤 美江
○部長	安藤 実香
(学務科)	
○科長	佐藤 英治
総括専門員	浅野 将宏
○主任専門員	宮本 憲
○主事	大見有紀子
再任用	磯貝 勝
非常勤	坂口 卓司
非常勤	辻 邦夫
非常勤	山下 篤
非常勤	田口 延行
非常勤	宇野 滋晃
(農学科)	
○(兼)科長	安藤 実香
科長補佐(花きG班長)	米倉 悟
○専門員	犬伏 加恵
主任	真野 恭平
技師	佐久真ひろみ
技師	原 知明
○再任用	新井 和俊
○科長補佐(作物果樹G班長)	
主任専門員	落合 幾美
主任	長崎 晋作
技師	古川 恵
○非常勤	影山 舞子
○非常勤	柳澤 淳二

○科長補佐(野菜G班長)	樋江井清隆
主任専門員	吉田 圭介
○専門員	中嶋 譲
技師	牧 宏優
技師	小島 優作
再任用	金沢 輝芳
(科長補佐(畜産G班長))	
○主任	齋藤 勉
技師	鳥居 雅樹
技師	春日井大輝
技師	河合奈菜子
技師	横井 太志
○非常勤	鶴田 瑞穂
○非常勤	村田 結
(兼)部長	島岡 勝隆
(就農企画科)	
○科長	横井 信之
主任専門員	玉越千賀子
○主任専門員	加藤 夕子
主任	中坊 昌也
(担い手研修科)	
○科長	落合 敏弘
○専門員	本庄 弘樹
主任	福田 充洋
主任	永井 文万
再任用	福井 敏幸
再任用	杉浦 直樹
再任用	二村 幹雄
非常勤	梶田 靖
非常勤	中村 彰
非常勤	大澤 史季



令和4年度 会計決算報告

1 令和4年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
3,081,187	1,804,818	1,276,369	自令和4.1.1 至令和4.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	2,020,000	2,020,000	0	農学科101名 (@20,000円)
雑収入	17	17	0	預金利息 4.2.20 6円 4.8.21 11円
繰越金	1,060,950	1,060,950	0	前年度より繰越
戻入	0	220	220	振込手数料残 余分戻入
計	3,080,967	3,081,187	220	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	60,770	58,270	2,500	会員割 20,000円 学生1名 500円×75名 振込手数料 770円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会 活動費	21,540	0	21,540	
旅費	90,000	0	90,000	東海近畿ブロック会議中止 全国連盟総会書面開催
事務用品費	40,000	684	39,316	事務用切手代
会報発行費	778,000	826,789	△48,789	同窓会報第38号 印刷・発送
会議費	120,000	59,875	60,125	役員会1回 3.1.15 理事会1回 3.2.5開催費等 (旅費、昼食代、謝礼等)
賃金	11,000	0	11,000	
記念品費	243,000	297,425	△54,425	卒業生記念品 (名刺入れ、図書カ ード、ピンバッジ)
表彰費	70,000	22,275	47,725	表彰者1名
個人情報 業務委託費	132,770	132,770	0	会員データ年間管 理料 132,000円 振込手数料 770円
交際費	10,000	0	10,000	慶弔電報代
繰出金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予備費	1,093,887	6,730	1,087,157	オープンキャンパス 試食品費
計	3,080,967	1,804,818	1,276,149	

2 令和4年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
1,859,165	0	1,859,165	自令和4.1.1 至令和4.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	10	14	4	4.2.20 7円 4.8.21 7円
名簿収入	3,000	3,000	0	3.10.18 1冊
繰越金	1,656,151	1,656,151	0	前年度より繰越
計	1,859,161	1,859,165	4	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	1,859,161	0	1,859,161	
計	1,859,161	0	1,859,161	

3 令和4年度 開設記念基金会計収支決算

(1) 普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
3,079,851	0	3,079,851	自令和4.1.1 至令和4.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	20	24	4	4.2.20 12円 4.8.21 12円
繰越金	2,879,827	2,879,827	0	前年度より繰越
計	3,079,847	3,079,851	4	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	3,079,847	0	3,079,847	
計	3,079,847	0	3,079,847	

(2) 定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
500,711	0	500,711	自令和4.1.1 至令和4.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	50	43	△7	4.2.5 43円
繰越金	500,668	500,668	0	前年度より繰越
計	500,718	500,711	△7	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	500,718	0	500,718	
計	500,718	0	500,718	

## 令和5年度 会計予算

### 1 令和5年度 一般会計収支予算

#### 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
会費	1,500,000	2,020,000	△520,000	農学科 75名
雑収入	17	17	0	預金利息(2月・8月)
繰越金	1,276,369	1,060,950	215,419	前年度より繰越
計	2,776,386	3,080,967	△304,581	

#### 支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
全国連盟会費	57,050	60,770	△3,720	会員割 20,000円 学生1名 500円×73名 振込手数料 550円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,100	21,540	△440	10,000円×2支部 振込手数料 550円×2
旅費	90,000	90,000	0	東海近畿ブロック会議、全国連盟総会の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	827,000	778,000	49,000	同窓会報発行・発送
会議費	120,000	120,000	0	役員会、理事会開催費
賃金	11,000	11,000	0	
記念品費	165,000	243,000	△78,000	卒業生記念品代 75名
表彰費	70,000	70,000	0	同窓会員の表彰記念品代
個人情報業務委託費	132,770	132,770	0	会員データ年間管理料 132,000円 振込手数料 770円
交際費	10,000	10,000	0	
繰出金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予備費	822,466	1,093,887	△271,421	
計	2,776,386	3,080,967	△304,581	

### 2 令和5年度 名簿作成基金会計収支予算

#### 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	10	10	0	
名簿収入	3,000	3,000	0	
繰越金	1,859,165	1,656,151	203,014	前年度より繰越
計	2,062,175	1,859,161	203,014	

#### 支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	2,062,175	1,859,161	203,014	
計	2,062,175	1,859,161	203,014	

### 3 令和5年度 開設記念基金会計収支予算

#### (1) 普通預金

##### 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	20	20	0	
繰越金	3,079,851	2,879,827	200,024	前年度より繰越
計	3,279,871	3,079,847	200,024	

##### 支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	3,279,871	3,079,847	200,024	
計	3,279,871	3,079,847	200,024	

#### (2) 定期預金

##### 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
預金利息	50	50	0	
繰越金	500,711	500,668	43	前年度より繰越
計	500,761	500,718	43	

##### 支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	500,761	500,718	43	
計	500,761	500,718	43	

## 事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、その状況を事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいて結構と言われる方がおみえになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入し、10月31日までに農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局

同窓会長 柴田 隆夫

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2

電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

## 会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂ネクストへ会誌の発送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報には個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。

**株式会社廣済堂ネクストの個人情報取扱について**

- いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
  - ・ 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送
  - ・ 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
- (同窓会会則に準じます)

- ご提供いただいた個人情報については、株式会社廣済堂ネクスト(以下弊社)が責任をもって管理いたします。
- 弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。
- ご提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
- 個人情報保護原則として本人にかぎり、開示、訂正、削除を求めることができま